

議 事 録

1. 会議の名称 池田市発達支援システム検討委員会
2. 開催日時 令和5年8月25日(金)午後2時～午後3時30分
3. 開催場所 池田市役所3階議会会議室
4. 出席者
《委員》 片山委員長、佐藤副委員長、平山委員、
嶋岡委員、小林委員、島本委員、田本委員、上西委員、
乾委員、安田委員、竹内委員

＜大阪大学＞ 村田特任助教
＜事務局職員＞ 衛門子ども・健康部長
(発達支援課)加藤課長、森田副主幹
(障がい福祉課)大賀主事
5. 議 題
(1) 正副委員長の選出について
(2) 令和4年8月～令和5年7月の取り組みについ
て
(3) 各委員からの案件について(意見交換)
→各委員からの情報提供や報告
(4) その他
6. 議事経過 別紙
7. 公開・非公開の別 公開
※非公開の理由
8. 傍聴者数 なし
9. 問い合わせ先 池田市 子ども・健康部 発達支援課
(072)752-1111 内線185
(072)754-6102 (ダイヤルイン)
E-mail h-shien@city.ikeda.osaka.jp

議 事 経 過

発言者	発言の要旨
事務局	<p>○開会 （部長挨拶、委員異動、出席状況など報告）</p> <p>案件（１） 委員長に片山委員、副委員長に佐藤委員が就任</p>
委員長 副委員長	<p>○委員長挨拶 ○副委員長挨拶</p>
事務局	<p>案件（２） （資料１ および添付資料１～６に基づき説明）</p>
委員	<p>みんなで学ぼう発達凸凹について、３月に実施しているが、卒園等でバタバタしていて本当はみんな行きたかったが行けず、捻出して数名に限らせて参加する形になった。時期の検討をお願いしたい。</p>
委員長	<p>今までの経緯をお伝えすると、お呼びする講師の方によって市民のどなた向けに主に聞いていただきたいか、ターゲットを絞って出席いただけそうな日程調整をして決めてきたが、残念ながら「来ます」と言っても来ない。来ないのであれば、時期に関しては幅広く考え、３月を外す方向で考えたほうがいいのかその辺りまたご意見いただきたい。目論見としてはできるだけ多くの人に聞いてもらいたいが、例えば、昨年度国連勧告があり、インクルージョンについての話を含めていただきたいということから学校の先生が出てきやすいということで、この時期にさせていただいた。支援センターの方々が多く参加できる時期を考えて今回は開くことができるように検討したい。</p>
委員	<p>なるべく教職員が参加できる日程を設定していただき、掲示板掲載など今まで以上に周知は色々な方法をとっていたが、参加していただけなかったため、周知方法や参加について課題としている。</p>
委員長	<p>講演会については、市の行政の縦割りが影響していると考えている。多くのことは縦割りで完結するのかもしれないが、発達に関してはすべてのライフステージにかかわるため、実際は全ての市民に関係ある</p>

<p>副委員長</p>	<p>ことにもかかわらず、発達支援課が主催することによってもっと枠が狭いものだと感じて来ない人がいる。前の年に別途録画したものを流して研修したら、なぜこんなすごく良いものを案内してくれなかったのですかと言われ、案内したのに来なかったじゃないですかと言ったら、発達支援課が主催だとそもそも関係ないと思っていたという回答だった。もっと他の課にもアプローチの方法を頑張っていたいただきたいところ。</p> <p>イケダスの活用について保護者に聞き取ったところ、1番多かった意見としては、書く項目が多くて手が回らないということ。母子手帳など他に書くものが多いため書くのが難しい。幼児期には提示を求められることがあったが、小学校に上がると特に提示することもなく、書くタイミングが分からなかったという意見もあった。今後どうしたら活用できると思いますかという問いかけには、面談や学校等関係機関で一緒に書いていただくと助かるとのことだった。自分だけだと迷いもあるしイケダスを書くということに繋がらない。書いたものを貼るだけだと助かる。発達検査等の検査の結果を足しこめると助かる。各部署がイケダスを活用して連携してもらえらるなら本当に助かる等の意見が上がった。</p>
<p>委員長</p>	<p>書くお手伝いをして欲しいという意見は前からあり、機会を作ろうと努力していただいているがなかなかそういったシーンに繋がらない。今後の活用を広げていくためにはあちこちで使っていただくシーンが増えないといけないのだが、各部署で使っていないという現状がある。理由の1つは作ってから時間が経っているため、職員であっても活用の仕方が分からない人がいるから。もう1つは相談の際には必ず使いましょうというルールになってないから。そこは変えて欲しい。イケダスのメリットの1つに、障がいがある人またはサポートが必要な人のためのものだけではないというコンセプトがある。何かトラブルがあった時、支援が必要になった時に遡って見ていただけることが強みであるが、今限定的になっている上に乳幼児期のサポートが必要な人だけ使っているのが現状。それさえも窓口によっては使っていないので、まず使うシーンを増やさないといけない。一つの切り口として事業所連絡会で使うことを検討してもらっているが、事業所は他市の児童の利用も多くあるため、池田市の税金で作ったものを他市の人が使うのはいかがなものかということがあり、そのハードルが高いため</p>

<p>委員</p>	<p>難渋している。</p> <p>勤務先の医療機関には府下様々な地域から来られるが、池田市の方からイケダスを持ってこられる方もいる。発達障がい診断する時、数値やIQ等が大事なのではなくて、その子のそれまでの発達の状況を確認することが非常に大切である。例えば行動上にどう表れているか、今までどのようなことがあったかというところを確認するため、非常に診察に時間がかかる。もちろん医療情報として追加で聞かないといけないことはあるが、イケダスを書いてきてもらえたら診療時間がかなり短縮されるためとても便利。他市町村で書いてきていただいた資料は、書くのは簡単かもしれないが、診断する側からしたらあまり役に立たないものが多い。また、20歳になった時に障害年金の診断書を希望される方が多い。そうすると障がいが永続的であることを証明しないと聞けないが、病院をそれまで受診していない方はとてもハードルが高い。初めて20歳になって病院に来た場合、3歳の時どうでしたかと聞いてもなかなか分からない。障害年金が支給されるかされないか、1級になるのか2級になるのかという大きな判断となるため、もっとイケダスを活用していただけたらと思う。出生や転入時、どうやって市民はイケダスを知るのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>出生届を出されたときに、まずはチラシと共にイケダスをお渡ししている。さらに市HPの掲載や、健康増進課での健診時に周知しているところ。取っ掛かりは出生届時と考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>池田市から複数の方が受診されているが、持参する人とそうでない人が居る。中身を見たら確かに書くことは多いが、こちら側としては非常に便利な資料である。診断の一部にも使える等メリットがあるということ色んなタイミングで言っていたらと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>いきなり全部埋める必要はないということ等、窓口でどれくらい説明しているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>説明をどれだけしているかの情報は申し訳ないがない。チラシに加えイケダスの中には活用の方法のポイントや事例集を付けているため、それを読んでいただく形になっている。</p>

<p>委員長</p>	<p>逆の立場になった時考えると、よほど書く気がないと読まないし書かない。窓口で「とても太い冊子ではありますが書けるところだけまず書いておくと、のちのち役に立ちますよ」などの説明をしてほしい。あと、以前お聞きしたときに発達支援課で少人数のグループ療育をされる時に、参加されたお母さんに書き方等教えるようにするとおっしゃっていたが進み具合はいかがか。</p>
<p>事務局</p>	<p>発達支援課の小集団での療育グループを開催している時にも、半年に一回保護者の話し合いを開催しており、「こういう使い方ができますよ。」や「今現在書いておきたいページはここですよ。」という案内をしている。それこそ就学相談の場等でイケダスが活用されていると案内し、そのあと個別の面談の時に一緒に見ながら書いていきましょうと話している。その場では多くの方が居るため、付きっきりで一緒に書くということはない。また、個別面談の中で発達検査のフィードバックの紙を渡す時に、イケダスのフェイスシートに発達検査の項目もあるためこちらの方で書かせてもらう時もあるし、穴を開けてイケダスに挟んでくださいなどと案内している。経過として分かるようにということを申し上げている。</p>
<p>委員長</p>	<p>可能であれば、最初のページの関係ありそうな部分だけでも一緒に書いてあげて欲しい。聞き取りながら書くお手伝いをしてもらえると、その後、他のところは自分で書いていただけるようになるのかなと思う。昔、書き方の講習会を開催していただいたが、かなり周知したのにも関わらず3人しか参加者はいなかった。こういった形態では人は来てくれないと感じたため、やはり1番は各窓口に来られた時に1ページだけでも一緒に書いていただくと、一緒に書いたという行為がお母さんの安心を生んで支援に繋がったという声もあるのでお手伝いいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>イケダスの活用が就学のところから途切れているという意見が出ているが、昨年度国の通知によって支援教育を見直していく中で、『子どもを捉える』というのが学校は非常に漠然としている、と課題として強く感じたところ。例えば ASD の子どもの個別の指導計画の目標に「人の気持ちが読めるようになる」と書いてある。となるとそもそも根本の子どもを捉えるというところで、正しく捉えることができていないので、その目標が6年間上がり続けてしまうということが起きてしま</p>

委員長	<p>った。そんな中で、まず教育で就学相談の時に書いて持ってきてくださいとお願いをしているが、やはりそこが十分に活用できていない。子ども 1 人ずつ、その子のどういう特性があってどういう指導目標を立てて、どう指導していくのかを定める際にイケダスをもっと使い込んでいこうということで、昨年度後半お助けガイドをすごく活用させていただいた。現在の様子の記入のところ、コーディネーターの一部で実際に子どもを見るときに、評価と達成度 1 から 4 をもとに見ていき、1 つ上の段階が個別の指導計画になったらいいということを教員の中で話したら、個別の指導計画のイメージがつきやすくなった。次の段階として、今度は担任者会等色々なところで、知的のお子さんの場合だったら実際どうですかなど、ここの部分を見ていただきながら、特に 3 学期は次年度の目標の案を作っていくので、それぞれの子どもの達成度の 1 つ上の段階となると、「人の気持ちが読める」の前にやるべきことがたくさんあるということが分かるかと思う。今、学校現場では支援の担任者やコーディネーターに昨年度から周知をしており、今年度の個別指導計画にも活用していく方向で今動き出したところ。就学相談にあたっては、小学校はイケダスを全面的に活用する形に変えた。今まで A3 の裏表で同じようなことを記入していただいていたが、今回から就学相談の申し込みは名前と心配していることにとどめ、イケダスを持参していただくことにした。その内容を小学校にお伝えし、小学校の方もそれを受けてどんな目標を立てるかなどお子さんを知ることと、教育としてどういうことができるのかということに繋がったらいいなと思っている。中学校については、浸透の具合が違っているので今後、小学校と同じような形にしようと思っている。あともう 1 点、ケース会議を行う際にも学校がなかなか情報を持っていない中で、訪問支援等をお願いしたいというときに、まず学校が 13 ページのサポートネットワーク辺りをしっかりと自分たちが確認していくことでも見えることがあると思うので、今後学校の中で使えるように周知していきたいと思っている。</p> <p>続けていただきたい。そういったことが今までなされていなかったことが広がらない大きな要因だったと思う。続けていただくだけで相当活用シーンが増えていくかと思う。役所でも実際に使えるように、役所の方々も学校での取り組みを受け取って頂く素地を作ってください。どうしても啓発が進むと ASD と聞くと『人の気持ちが読めない』と画一的に頭に入れる、これを改善しようとするのはそこから先がわ</p>
-----	--

<p>委員</p>	<p>かってない人の意見だと思う。診断とアセスメントは別で、診断というのは1つのチェックポイントであって、アセスメント評価というのはその子がどういう子であるかということを集団の中で理解してもらって、そこからどうしていくのかという話になる。</p> <p>診断と支援は繋がってはいるが違う。診断を端的に言うと、『人を順位づけして並べた時に、特定の順位から下を病気とする。』という考え方になる。ただ、その順位をつけるルールがない。発達障がいの場合、特に ASD の場合であれば、例えば対人関係の能力の育ち方が一般の人たちと少し違う。だからその対人関係の能力の順位付けをした時に、特定のところから下でその順位付けにはうまく入らないという人たちが診断されると、医者がルールに乗っ取って病名をつける。菌が見つかったからコロナですと言っているのと一緒。診断イコール支援ではない。支援というのは頭には障がい者支援や障がい児支援など『障がい』という文字がつくと思う。この『障がい』というのは本人の状態だけではなくて社会的障壁のことも含めて障がいとなるため、そういう意味では、あくまで診断というのは本人を知るツールの1つである。ではその子に次何が必要かということは病院では分かりにくいので、福祉の現場で1個1個聞き取って、学校教育現場でもまた1個1個聞き取ってそれぞれの専門家がそれぞれのこと言う。そうではなく、子どもの情報が一元化されているものを親が持っていて、それぞれの立場の人がそれを使って親に助言等すると支援がうまく回るかと思う。そうなったときに、色々なところから診断書を持ってきてくださいとよく言われているが、診断はあくまでその子を知る1つの援助ツール。支援は診断ありきじゃない。メディア等でもグレーゾーンとよく言われるが、医者的にはグレーゾーンというものはない。病名がつかつかないか。皆さんがグレーゾーンと言っているのは『診断はつかないが支援が必要な子ども』のことだと思う。子ども自身の色々なことを確認し、知るということが大事である。</p>
<p>委員長</p>	<p>先ほど話に出たコロナかどうかというチェック。コロナだと分かったところで咳が出るのか、熱があるのか、しんどいのかは人それぞれ違う。咳が強く嫌なのであれば、『咳』という部分に対してどうしていくかというのが支援。それは診断のあるなしではなく、咳だけ出ている人でコロナではない人も同じようにサポートして欲しいはず。イケダスを使うとその人の得意なこと、苦手なことの凸凹が分かり、診断の</p>

	<p>あるなし関係なく支援に繋がるというのが元々のコンセプト。サポートが必要な人だけのものではない。極端な話、診断がついていても環境が良く全く困っていない人もいる。そういったこともイケダスを見るとわかるため、活用して欲しい。くすのき学園では使用しているか。</p>
<p>委員</p>	<p>新入所の方に渡している時期はあったが、幼少期の頃からということを書きづらいということがあり渡しても返ってこない。くすのきのフェイスシートは返ってくる。</p>
<p>委員長</p>	<p>どの段階からでも書けるという話はしていただいているか。</p>
<p>委員</p>	<p>もちろんした上で、書けるところだけ書いてくださいとは言っているが書いてこない。一緒に書いた方が良いのかなと今回の話を聞いて思った。</p>
<p>委員長</p>	<p>ぜひお願いしたい。一緒に書くということが一番役に立つツールとなっていく。一緒に書いて頂き、次の窓口へ行った時にまた新たなことが書き込まれて、いつの間にか全部埋まっていき、ずっと繋がっていくことを目論んでいた。健康増進課はどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>保護者の中にあまり力がない方もいる。そういった方には個別にお手伝いしているが、力がある方には何かある度に周知は重々しているが一緒に書くということはない。ケースが多いので全員に付きっきりで書いてもらうのは難しいが、出来る限りサポートというか、一部でも一緒にできる場所はしたいと思っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>一部だけでも一緒に作って頂くことで相当な効果が見込めるため、引き続きお手伝いして欲しい。ハローワークでイケダスを活用することはあるのか。</p>
<p>委員</p>	<p>4月からの赴任ではあるが、持ってこられた方を一度も見たことがない。ただ発達障がいの方が増えているのは事実。診断書を持って来られるが診断名を見ても中身が分からないため、職員が面談しながら特性を掴んでいくようにしている。イケダスを持ってきていただければ、整理されているため助けになるのかなとは思っている。</p>

<p>委員長</p>	<p>イケダスを作る時にはハローワークの方にも委員として入っていたので、当然ハローワークで聞き取る内容も盛り込まれている。イケダスを持ってきてくださいと案内してもらえると、周知にも繋がるためお願いしたい。子ども家庭センターはどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>センターにイケダスを持って来られる方を見たことはない。療育手帳の新規交付や施設入所する際、母子手帳だけでなくイケダスを持ってきていただけたら面接がもっとスムーズに進むのかなと感じた。</p>
<p>委員長</p>	<p>父母の会ではどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>記録を残すのが大事だということをみなさんに常々申し上げている。先ほど出たように、20歳の時の年金の申請の時細かく書くところがあり、そのときにすごく困るため残した方がいいと。書くのがとても大変ではあるが、今後のこともあるため、親が亡くなったときのために、誰が見ても分かるように利用したいと思う。小児科にずっと通っている方が20歳を超えてから病院探しとなると大変。小さいときからの病歴を知ってもらわないと、薬を出してもらっただけであっても、合う合わない等状況も変わってくる。そのため記録に残すということは本当に大事。</p>
<p>委員長</p>	<p>続けて情報発信をお願いしたい。色々な申請の際に使うシーンがあると思うので、書き込んであると楽。支援の要望書を書くときに、イケダスの項目を見ながら親としてやって欲しいことを書いていると個別の支援計画にそのまま落とし込んでいただけた。その場で思いついた強いエピソードを書くのと違って、イケダスには生活していくためのカテゴリーが網羅されているため、非常に抜け落ちが少ない中で支援計画を立てていただける。書くのが大変というところをなんとかクリアすればメリットを感じるシーンが増えてくると思う。事業所連絡会について意見はあるか。特に市外の人がいるからイケダスが使えないという声があるということについて。</p>
<p>委員</p>	<p>質問だが、池田市内の事業所に北摂近隣の人の利用はたくさんあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市外からの利用者数は把握できないが、令和3年度の市民の利用者数</p>

	<p>は延べ 7800 人近くあり、151 施設を利用して、内訳としては池田市内の事業所だけでなく、北摂全般と伊丹や川西などの兵庫県の施設の利用があった。</p>
<p>委員</p>	<p>今は、居住市区町村の福祉を、というニュアンスがあると思うが、わざわざ他市を利用する理由は何か。</p>
<p>事務局</p>	<p>事業所によって特色があり、他市にも見学や体験に行き、親子で合うところがあれば利用するという形もあるため。</p>
<p>委員</p>	<p>なぜ池田市内にこういった特色の事業所がないのか、などの意見はあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>池田市も同じようなことをしている事業所があるが、スタッフとの相性や雰囲気合わないなどのことがあると思われる。</p>
<p>委員</p>	<p>やまばと学園は豊能町や能勢町の方も利用しているが使えないため、許可を得て一部コピーして使用しているが、一部であるのとカラーでないのとでテンションが上がらない。また、市民だが外国籍の方もおられるので英語版も欲しい。</p>
<p>委員長</p>	<p>検討したい。なし崩し的に、どんどん市外に出てしまうというのは、イケダスは池田市の税金を使って作っているというのと、阪大の知的財産であるため、どんどん流出するのではなく網掛をしてしっかり使っていただきたい。添付資料 4 の中で、池田市は放課後等デイサービスが少なく豊中や箕面まで通っているという意見があるが、事業所の合う合わないは親の感覚であって、合うところがあれば池田市に行く気がする。今回作っていただいた事業所情報集が非常によく出来ているため、これがきちんと手元に届くようになればもう少し池田市内で利用していただけるのかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>通所受給者証を発行する際に必ず渡している。事業所情報集には各事業所の HP に飛ぶ QR コードも付いているため、各事業所の理念等も分かることから好評いただいているところ。最終的に理想的なのは、保護者が自ら事業所を探すのではなく、子どもが合っている事業所を提案するという形である。しんどい思いをされているのは保護者と子</p>

<p>委員長</p>	<p>ども本人のため、少しでも負担を減らすために良いものを作りたいと思っている。</p> <p>事業所情報集がバージョンアップしたので、今後どうなっていくか楽しみ。特に大阪府で今非常に大きな声が上がっている課題というのが、各事業所の職員のスキルアップ・レベルの担保。各事業所の HP 上で凄く良さそうと思って行っても、実際全然違うこともある。大学院では多分野で連携できる人材を少しでも世の中に送りたいと人を集めている。働きながらでも勉強できるので、年齢がいった方でも入れるためぜひ誘導していただければありがたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>私どもも事業所職員のスキルを上げないといけないという思いがあり、事業所連絡会を年 2 回に増やしたところ。事業所の中の困りごとの 1 つとして、相談する場がなく自分たちだけで判断してしまっているということがあったので、集まる場を設けることによって相談し合ってもらおうようにしている。ただ単に話をするだけではなくグループワークもあり、事業所同士知り合いになってもらうというのを主にしている。</p>
<p>委員</p>	<p>案件 (3)</p> <p>各委員からの案件がないため、議題に限らず意見交換</p> <p>資料 1 の 6 ページ、アンケート結果要約の中にニーズの高い事業をしている事業所と書いてあるが具体的なニーズとは何か。</p>
<p>事務局</p>	<p>添付資料 4 の 4 ページ、アンケートの中に個別療育が少ない、ST がどこの事業所でも居て欲しい、言語訓練をやって欲しい、運動リハビリができるようなデイが欲しいというような内容があった。窓口での質問でも多く上がっている。あるにはあるためご案内はできるが、実際にはキャンセル待ちの事業所が多いので、アンケートも踏まえそういったところがニーズとして高いと感じている。そこについては大阪府で事業所開設の際、事前に市にも総量規制の確認があり、事業所からも池田市での数は足りているのかという問い合わせがあり、その際に内容を聞かせてもらい、数だけではなくて質としてニーズが高そうであれば、市としてもぜひ開所して欲しいというような意見を申し添えている。保護者支援に力を入れているところも併せてどんどん開所</p>

<p>委員</p>	<p>してもらいたいと考えている。</p> <p>池田保健所では難病や医療的ケアが必要な方と多く関わるが、池田市では事業所はたくさんあるが医療的ケアが出来るところは限られていて、茨木市や大阪市まで行っている方もいる。イケダスを利用されている方がいないので、本日診断に役立つということが分かったので保健所でも声掛けをしようと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>ぜひお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料 1 の 4 ページの障がい児通所支援事業で年々給付金額、利用延べ人数が増えているがこのまま増え続けるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>昨年 12 月に文部科学省が公表した調査結果によると、通常学級の在籍している小中学生のうち 8.8%が、学習面や行動面で著しい困難を示す発達障がいがある可能性があるという。まだ顕在化していない発達支援が必要なニーズがあることから、少子化と言いながらも支援の活用は逆に増えていくと思う。ただ、当然可能性なので、年を重ねるごとに高校生だったら 2.2%ということになってきているため、8.8%全員が発達支援に繋がっているわけではない。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートを見た時に、それは本当に要るのかというようなところから、絶対に必要であろうものまである。要は、事業所の質の担保もそうだが、利用者のニーズをどこまで市が用意するのかという点で何か計画はあるか。多くの人が希望するからといって何でも支給していたら恐らく潰れる。事業所が立ち上がって数年たったら潰れるという話も聞く。親のニーズを聞き取ると、療育をやりたい、SST をやってほしい、親が働いているから土曜日や日曜日にやっているところがいい、遅くまで空いているところがいいなどという話がある。しかしながら果たしてそれは本当に子どものためなのか、というところでどうバランスを取るかというのが難しいなと池田市の多額な給付額を見て思った。</p>
<p>事務局</p>	<p>サービスの支給量は確かに多いが、支給日数については他市に比べると抑えている方だと思う。支給決定の判断には医師の診断書を原則求めたり手帳の提示を求めたりしているため、やみくもに支給している</p>

<p>委員</p>	<p>訳ではない。ただ必要な方々が増えてきているのは事実。特にコロナによって行動制限がかかり子どもと向き合う時間が増え、気づきに至ることが多くなった。色々な意味で疲弊してきているのが現状だと考えている。令和 3 年度の増加件数は、令和 2 年度に比べ、延べ人数 1814 人とかなり増加したが、現在は 900 人前後に収まってきた。</p> <p>私が外来で見ていたところ、コロナ渦では案外発達障がいの子もは落ち着いていた。理由は人との接点が減ったから。逆に親が疲れた。人と一緒にすることが楽しい子どもが疲れた。となるとコロナでサービス利用量が増えたというのは、本当に子どものニーズなのか、はたまた親のニーズなのではないかと。行政がバランスを取るの難しいと思う。イケダスは親が大変というが、子どもにとっては今までの人生が書かれているため、とても良いものである。イケダスを色々なところに持参すれば、その子どものことをわかってもらえる材料になるので。そういうことがコロナ禍を経て見えてきた。そのバランスを行政がとっていくのは難しいだろうと思い、お聞きした。</p>
<p>委員長</p>	<p>この件は、本当に難しいが、親に少しでも考えてもらう機会を持っているのは窓口の皆さんしかいない。そこは、何とかお子様のためにして欲しい。親のための時間として取るべき、使えるべきサービスが他にもある一方で、障がい児通所支援事業というのは親が休むためのものではなく、子どものための事業である。しかしながらそうならない現状が増えているため、子どもと一緒に過ごす時間をしっかり担保してもらうための支給だということこそメッセージとして出した上で、通所受給者証を発行して欲しい。療育の非常に有名な先生によると、放課後等デイサービスがどんどん乱立して、まず学童保育をフルに使って、そのあとお迎え付の放課後等デイサービスに行き宿題を見てもらい、家に帰ってきたらお風呂に入っておしまいという生活を送って「こんなに療育を活かしているのにうちの子が全然言うこと聞いてくれません。」と親が言うが、それは当たり前のこと。いつ子どもと過ごしているのか、どうやって母子関係を保つのか、というところ。また、療育は習い事をするところではないということについて、私たちは再三メッセージをお伝えしている。親が子どもとどんな風に接すべきなのかというのを勉強する場なので、一緒に療育現場でそれを学んでくださいということも再三言っているが、そのように利用している方は残念ながら殆どいない。熱心な親もたくさんいるが、そう</p>

副委員長	<p>っていないケースもたくさんみる。もちろん親の立場を考えると、しんどい思いをされているのもよく分かるので、そこは別のサービスが充実していれば良いなと思う。</p> <p>このコロナ禍で親の方々は本当に疲弊して、くたくたになっている状況なのは間違いない。ただ、親からの聞き取りによれば、解決して欲しいわけではなく、寄り添って欲しいということ。各窓口に行った時に、これはうちではできないということではなく、「大変ですよね。」と気持ちを読み取ってもらい、肯定してもらうだけで良いのだと思う。やはりそういった場がたくさんあると親の気持ちも安定し、心穏やかになってその子どもにも良い影響を与える。イケダスの中にあるサポートの連携表のように、連携する機関が多くあって、どこに行っても常に話を聞いてもらえると本当に違うと思う。忙しいところ恐縮ではあるが、寄り添っていただけると本当にありがたい。</p>
事務局	<p>案件（４）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回開催について <p>第三期池田市障害児福祉計画の素案を提示予定。 開催時期については、12月の中旬から1月上旬を予定。</p>
委員長	<p>○閉会（委員長挨拶）</p>